

一九五七年三月二十五日 発行



第40卷 第2号

史学・地理学・考古学

田堵の存在形態 .....村 井 康 彦(1)

——とくに散田と請作について——

記紀系譜の成立過程について .....笠 井 俊 人(28)

宋代「談馬顔等国」の位置に関して .....木 村 宏(45)

批判と反省

均田法の園宅地について .....曾 我 部 静 雄(54)

資料紹介

洛西広沢古墳発掘調査概報.....樋 口 隆 康(66)

書評と紹介

大阪市立大学難波宮址研究会：難波宮址の研究.....藤 岡 謙 二 郎(71)

河手龍海：日本塩業史 .....渡 辺 則 文(73)

佐伯 富：清代塩政の研究.....笹 本 重 巳(78)

H. Aubin : Stufen und Triebkräfte der abenländischen Wirtschaftsentwicklung im frühen Mittelalter .....堀 内 一 徳(81)

会報・学界消息

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室  
東洋史研究会  
樋口隆康京郵三七二八号

載からすれば、日本の任那に対する関心は、大化以後にあつても切実であつたと反論しているのは、その代表的なものである。

⑪ 上田正昭氏「上代氏族の形成過程」(国史学五五)

⑫ 異世代婚の民族学的考察については、布村一夫氏の「上代日本の異世代婚について」(歴史学研究第一八二号)の力作がある。拙稿もこれに奪かれるところ大であつた。

⑬ 印は皇統系譜に、○印は附加的系譜に夫々異世代婚のみられる場合を示している。

⑭ 例えば、目下部連は新撰姓氏録によれば彦坐命より出たことになつてゐるが、この氏族は彦坐命と沙本大間見戸売との間に生まれた沙本毘古王の後裔である。以下の例は略す。

⑮ 新撰姓氏録左京皇別和爾部朝臣の条「和爾部朝臣大春日朝臣同祖」とある。

⑯ 布村氏は、前掲論文において、異世代婚が三世紀から一〇世紀に至るまで一貫して行われたと説いておられるが、史料批判の上からして、その上限を三世紀まで遡らすことについては賛

同し難い。

⑰ 綏靖天皇の皇后は、古事記によれば師木県主祖河俣比売であつて天皇との血縁関係は全くないが、書紀によれば皇后は五十鈴媛命であつて、天皇の母媛踏躰五十鈴媛と姉妹関係にある。しかし、この場合嚴密にいつて何れを姉とし、何れを妹にするかについては分明でない。また用明天皇の場合にあつても、母岐多斯比売と妃富雲志比売との順姉妹関係が明らかでない。孝安天皇と押媛との婚姻は記紀ともに姪とあるのみで具体的な血縁関係は不明である。天智天皇と倭姫王との伯父・姪婚は、天皇と倭姫王の父古人皇子との兄弟関係が明かでない。

⑱ 統紀天平元年八月戊辰の詔参照。

⑲ こゝに示した原典は系譜的に血縁関係が明瞭に連れ得るもののみを記した。したがつて記紀何れか一方のみを記している場合にあつても、それは婚姻そのものが一方の史料にしかみえないというのではない。

⑳ 拙稿「上代紀年に関する新研究」(史林第卅六巻第四号)

### 史学研究会例会

日時 五月十一日(土) 午後一時

場所 楽友会館

講師演題

日本古代の歴史と地理に関する諸問題

大和朝廷の勢力圏の問題

地方豪族の構造の問題

律令都市の歴史地理的性格の問題

小林行雄氏

門脇禎二氏

藤岡謙二郎氏

相ざえ呈する。

中世北歐商業の前駆を荷うフリーストランド商業の衰退後は、フランクの南部、即ち北フランスがヨーロッパ文化の中心部となるが、経済現象の推移は根本的には大きな変化もなく、北西部への経済発展の主要地域を占める。また古代文化の遺産を最も保存し、地中海を介して東方商業と結ぶイタリアでも、十字軍時代のイタリア都市の繁栄を帰着点と考えるならば、アルプスの北と南では政治的経済的条件が相違するし、ローマ都市との直線的接続は認められないが、北とパレルにほぼ同様な経済事情の推移を理解してもよいであろう。十二・三世紀の遠距離商業の活潑化は、ゾンバルトの商人の資本蓄積、あるいは大規模商業 (Die Grosse Handel) の実現という課題はともかくとして、人口増加とそのエネルギーとあいまってヨーロッパに経済活動の大きな舞台を展開する。

× × ×

中世初期の商業に関するドーブシュ、ピレンス論争は、今日では、その内容の精密さや視野の拡大でまつたく面目を一新した感があるし、かつ都市成立の問題も、例えばブラーニツのヴェイクの研究 (オーバンはミッター

スのように従来の説を破棄して、全面的にブラーニツに同意するものではない)、北歐都市とイタリア都市との対比綜合の中に都市の歴史を個別的に考究しようとするエンヘンのそれにも、その歴史的意義を更めて見なおそうとする努力が払われている。オーバンは、これら最近のそれぞれ劃期的労作に足をふまえて、しかも鋭い批判的評価から古代地中海商業の衰退後ゲルマンの担つた商業活動とその領域を正しく理解し、商業(貨幣経済)と都市を通して、中世における遠距離商業とその始源から十一、十二世紀のいわゆる商業ルネサンス(遠距離商業の復活)への発展を跡づけ、中世初期経済史に正しいオリエンテーションを与えようとしている。換言すれば、ボンヌの「商業の復活」(La renaissance du commerce) というブラーニツの「十一、二十世紀の革命的な新时期」なるテーマに、精密化された実証を補うことによつて、より緊密な結び付きを提示するものである。

Triebkräfte, Staatssozialismus, Menschenverlust とか、いつた理念的用語の解釈には、かならずしも左袒しかねる節もあり、それ故この論文の真意を紹介し得たかどうか

疑問であるが、それはともかく、かかる企ては、ドイツ経済史学の伝統を正しく継承する。そして *Verteiljahrschrift für Sozial und Wirtschaftsgeschichte* の主幹である彼が、当然な事ななければならないことであつたらう。一言蛇足を加えるならば、中世初期荘園における手工業者の都市への移住という大きな問題も、実証的研究の不足もあつて、農村経済との関連が深く掘り下げられていないため、極めて平面的にしか理解されないのではなからうか。

— 堀内一徳 —

#### 執筆者紹介

村井康彦	京都大学大学院学生
笠井倭人	京都大学大学院学生
木村 宏	大阪市立大学助手
曾我部静雄	東北大学教授
樋口隆康	京都大学講師
藤岡謙二郎	京都大学教授
渡辺則文	広島大学助手
笹本重巳	京都大学大学院学生
堀内一徳	京都大学大学院学生

高知県寺川部落に於ける焼畑経営の構造

相馬 正胤

横手盆地周辺地域の山林所有形態について

工藤吉治郎

関東北部と岩手の蔬菜移入に於ける

競合関係 川本 忠平

果樹経営と米作―静岡県のみかんについて

安藤万寿男

会津赤井谷地―泥炭地の構造と土地利用

吉田 義信

諏訪製糸業発達に於ける地理的原因

千葉 徳爾

駅の分布―地域構造の一断面 加賀谷一郎

衛星都市の工業機能 山鹿 誠次

地域構造としての都市圏網

―名古屋市周辺地域の場合―

高野 史男

都市と土地利用の地域分化との機能的

関係―米沢盆地の地域構造 田辺 健一

考古学関係

唐津市周辺の調査 一月五日―二月二日

東亜考古学会の継続事業として、京都大学

水野清一教授等一行が、唐津市東宇木、同

市宇木汲田を発掘した。東宇木では、古墳

時代中期から後期にかけての横口式石室、箱式棺、地下式土壙計十三基が発見され、

珠文鏡、玉類、刀剣をえた。汲田では、八

十平方米の区域より弥生式前期末より後期

にかけての甕棺五十四基を掘り、銅剣五、

銅矛二、銅戈二、銅劍五、多鈕細文鏡一、

玉類が発見された。多鈕細文鏡が学術調査

によつて発見されたのははじめてのこと

で、豊富な銅製品の出土とともに、注目す

べき成果である。

下関市安岡町提梁浜遺跡の調査

一月二十一日―二十九日

下関市教育委員会の委嘱により、奈良古文

化財研究所金閼恕氏等が発掘をおこなつ

た。同地は大正二年に銅剣二と多鈕細文鏡

一、その後銅剣二が出土したところであ

る。発掘の結果、組合式箱式棺三、石圍一

が発見された。そのうち箱式棺二には、直

上地表に列石または敷石が設けられ、その

外側にすえた弥生式壺とともに、墓標を意

味するものとかんがえられる。同様の敷石

は他に三個所認められた。年代は土器から

弥生式前期末と推定される。

編集後記

新進村井氏の力作をはじめとして興味深い  
数々の玉稿、本号も多様な内容を盛つてお届  
けすることが出来る。編者にとつてこの上も  
ない喜びである。いよいよ四月には、昨秋定  
められた新会則が施行される。長い伝統に輝  
く本会が、更に飛躍するための衣更えである。  
史林も数えて四〇巻、不惑の域に達したとて  
も言うべきか。今年を史学研究会発展の重要  
な闘期とするために、会員の各位の推進をお  
願ひする。

(笠沙雅章)

一九五七年 二月二五日印刷  
一九五七年 三月一日発行  
史 林 (第四〇巻 第二号) 定価 百円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内  
理事長 藤原 健  
編輯主任 赤松 俊秀  
印刷所 中村印刷株式会社  
京都市下京区七条御所ノ内東町三九

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. XL NO. 2

Mar. 1957

---

### CONTENTS

#### Articles

- A Study of *Tato* (田堵) —especially on its relation  
with *sanden* (散田) and *ukesaku* (譜作) —..... *Y. Murai* ( 1 )
- The Making of *Kiki* (紀記) Genealogy ..... *W. Kasai* ( 28 )
- The Situation of “*Tam-mā-gan-tien koku*” (談馬顏等国)  
in the Sung Dynasty ..... *H. Kimura* ( 45 )

#### Review & Criticism

- The *Yüan-chai-ti* (園宅地) under the *Chün-p'ien* (均田) Law  
..... *S. Sogabe* ( 54 )

#### Short Notice

- Preliminary Report of the Excavation of Ancienttomb  
*Hirosawa* (広沢), West Kyoto. .... *T. Higuchi* ( 66 )

#### Book Reviews & News

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan